

那須リビングラボ構想

一般社団法人ナスコンバレー協議会

未来のWell-being社会の構築と平和の実現に向けて

一般社団法人ナスコンバレー協議会（2021年10月設立）

代表理事 株式会社LIFULL
理事 日本駐車場開発株式会社
理事 株式会社デジタルホールディングス
理事 SUNDRED株式会社

代表取締役会長 井上高志
代表取締役社長 巽 一久
代表取締役会長 鉢嶺 登
代表取締役 留目 真伸

各社の役割

日本駐車場開発グループ : 東京ドーム170個分の実証フィールドおよび宿泊施設の提供
デジタルシフト : ワーケーションプログラムの運営・提供
LIFULL : プロジェクト推進、プログラムの運営支援
SUNDRED : プログラムの開発・運営

後援：経済産業省関東経済産業局

地域資産活用、デジタルトランスフォーメーション、マーケティング、21世紀型社会、オープンイノベーション、新産業共創など、それぞれの専門性を活かして「ナスコンバレー協議会」を推進していきます



「あらゆるLIFEを、FULLに。」をスローガンに国内最大級の不動産住宅情報サイトの運営から地方創生等、様々なサービスを展開。LivingAnywhere CommonsやWell-being for Planet Earth Foundation等、新しい社会の在り方に向けた取り組みを積極的に推進。



「ハッピートライアングル：関わる人全てがハッピーなビジネスを」という経営理念のもと、事業を通じて社会をより良くすることを実践。リゾートの再生等、地域資産の価値向上の実績多数。



「デジタルで、この国の新しい基本をつくる。」をミッションに、デジタルシフトによる企業価値向上と事業成長のための各種サービスを提供。2020年10月より那須で「ワーケーションサービス」の提供を開始。



「100個の新産業の共創」を目指す新産業のアクセラレーター。アカデミアの研究とプロジェクトの実践を通じて開発した「新産業共創プロセス」をもとに新産業のエコシステムの共創を推進。

21世紀の幸福と安心で満たされる社会の実現に向けて

Beyond SDGs

Well-being

限界費用ゼロ社会

生活費 10 分の 1 人類をお金・時間・場所の制約から解放する

サステナビリティ

ダイバーシティ & インクルージョン

共創コミュニティ

自律分散型社会

循環型社会

共生社会

個のエンパワーメント

多様価値最大化

継続的知識創造 & 進化

...and more

プロジェクト概要

- ◆2021年10月1日 一般社団法人ナスコンバレー協議会設立
- ◆北那須エリア（那須町・那須塩原市・大田原市・栃木県）の自治体と連携
- ◆東京ドーム170個分の広大な私有地を様々なプロジェクトの実証実験のフィールド
- ◆ワーケーションプログラム1人1泊あたり200円～
- ◆大企業、ベンチャー、地域企業、自治体、アカデミア、個人等が集い、
Well-beingな21世紀型社会の実現に向けた共創・実証実験・社会実装プロジェクトを推進していきます

次世代モビリティ

ドローン

循環型・自律分散型
ライフライン、
次世代エネルギー

次世代
ハウジング

遠隔医療
ヘルスケア

遠隔教育・人材育成

ゼロ・ウェイスティ
ング（野菜、食品、
プラスチック等）

Well-being

Food Tech

プレコンセプション
ケア

その他、新たなプロジェクト創出は参加企業の自主性を重んじて自由に実施いただけるように協議会はサポートします。

ナスコンバレー実証エリア

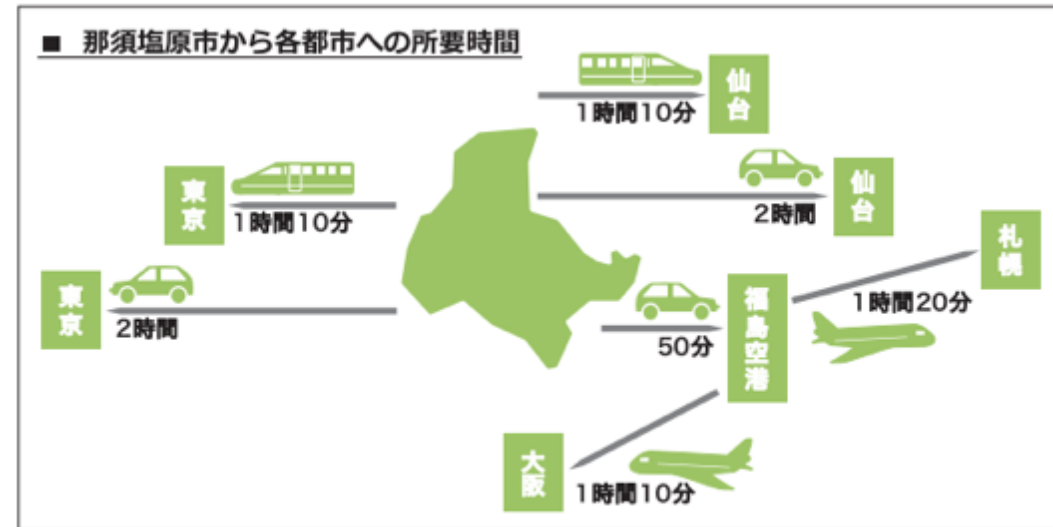
新技術や新事業の実装には法制度が課題でブレーキ
私有地を使って事業を**アクセラレート**



ナスコンバレー実証エリア



- 東京駅から那須塩原駅まで新幹線で約70分
- 高速道路ICが4つ（東京から約3時間）
- JR在来線の駅が7つ
- 新宿駅から高速バスも運行



※市調べ

An aerial photograph of a vast, lush green valley. In the background, a large, rugged mountain with a dark, rocky peak rises against a clear blue sky. The valley floor is covered in dense green forests and fields. A small town or village is visible in the lower left, featuring a large, colorful, and somewhat abstract building that resembles a modern art installation or a festival structure. The overall scene is bright and vibrant, suggesting a healthy, natural environment.

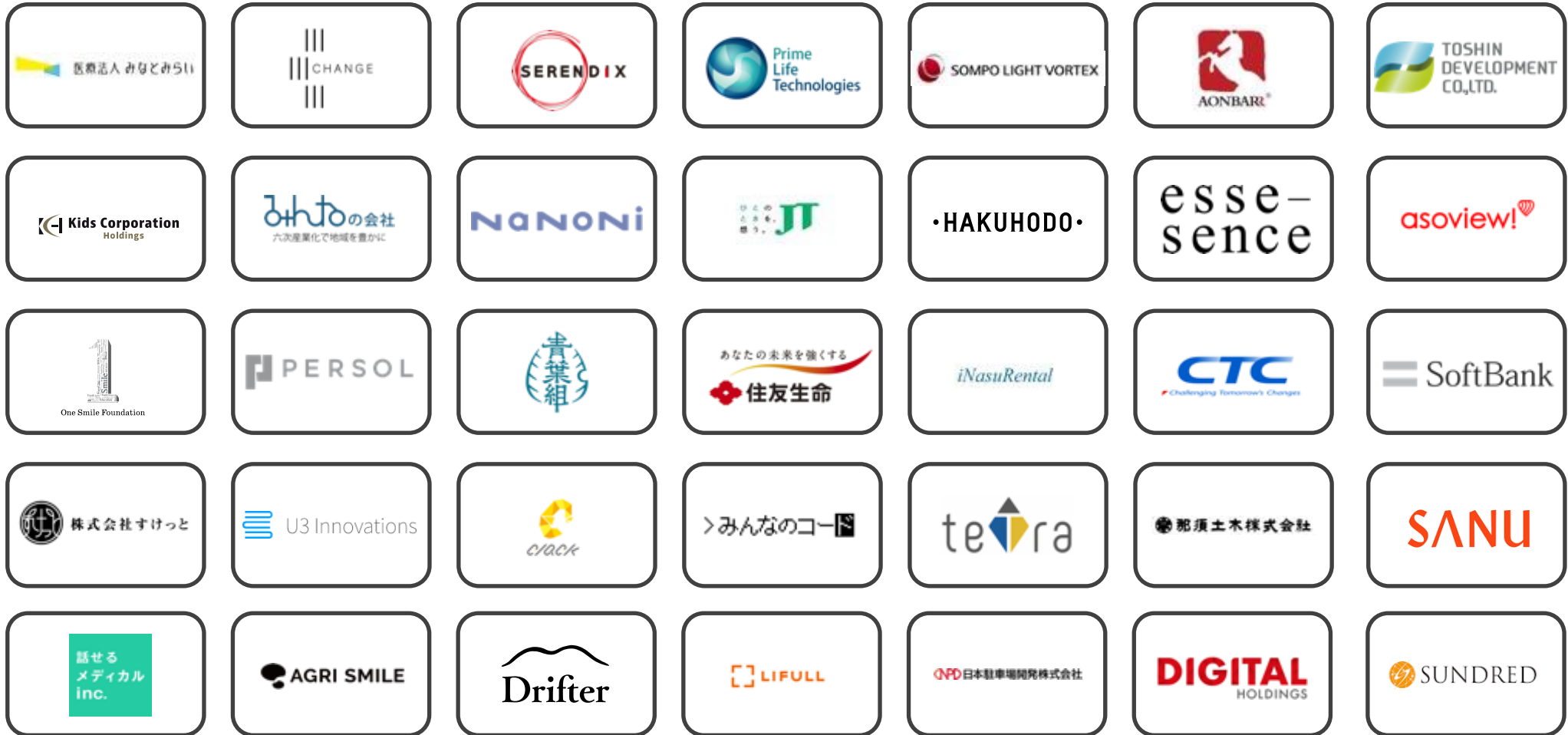
ナスコンバレーから
21世紀の幸福と安心で満たされる社会の実現を



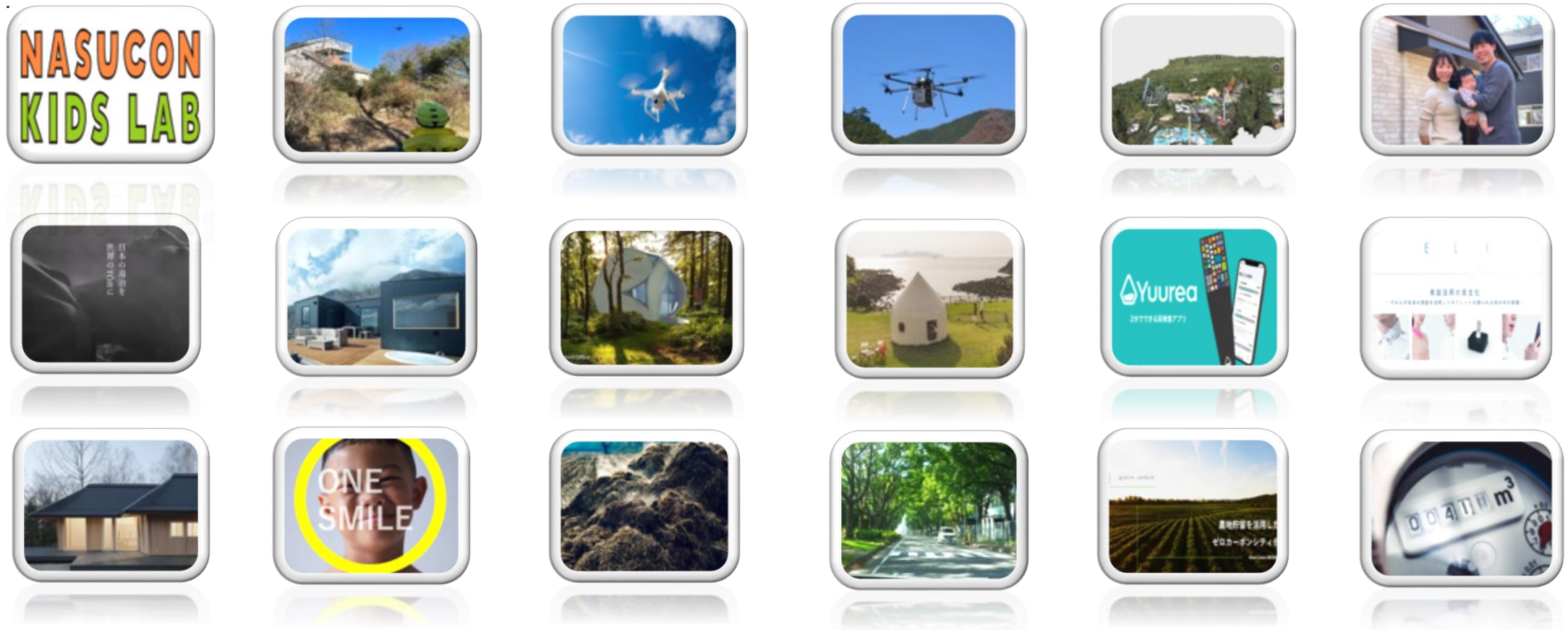
テレビ東京 ワールドビジネスサテライトにて放送



会員企業/パートナー企業社数 96社



企画/推進中のプロジェクト60件



実施済み	実証実験数	推進中のPJ	企画中のPJ	新規PJ	合計
13	11	7	16	13	60

那須エリアにおける経済効果約1億6,284万円

オンラインイベント：10回
→参加総数350名超

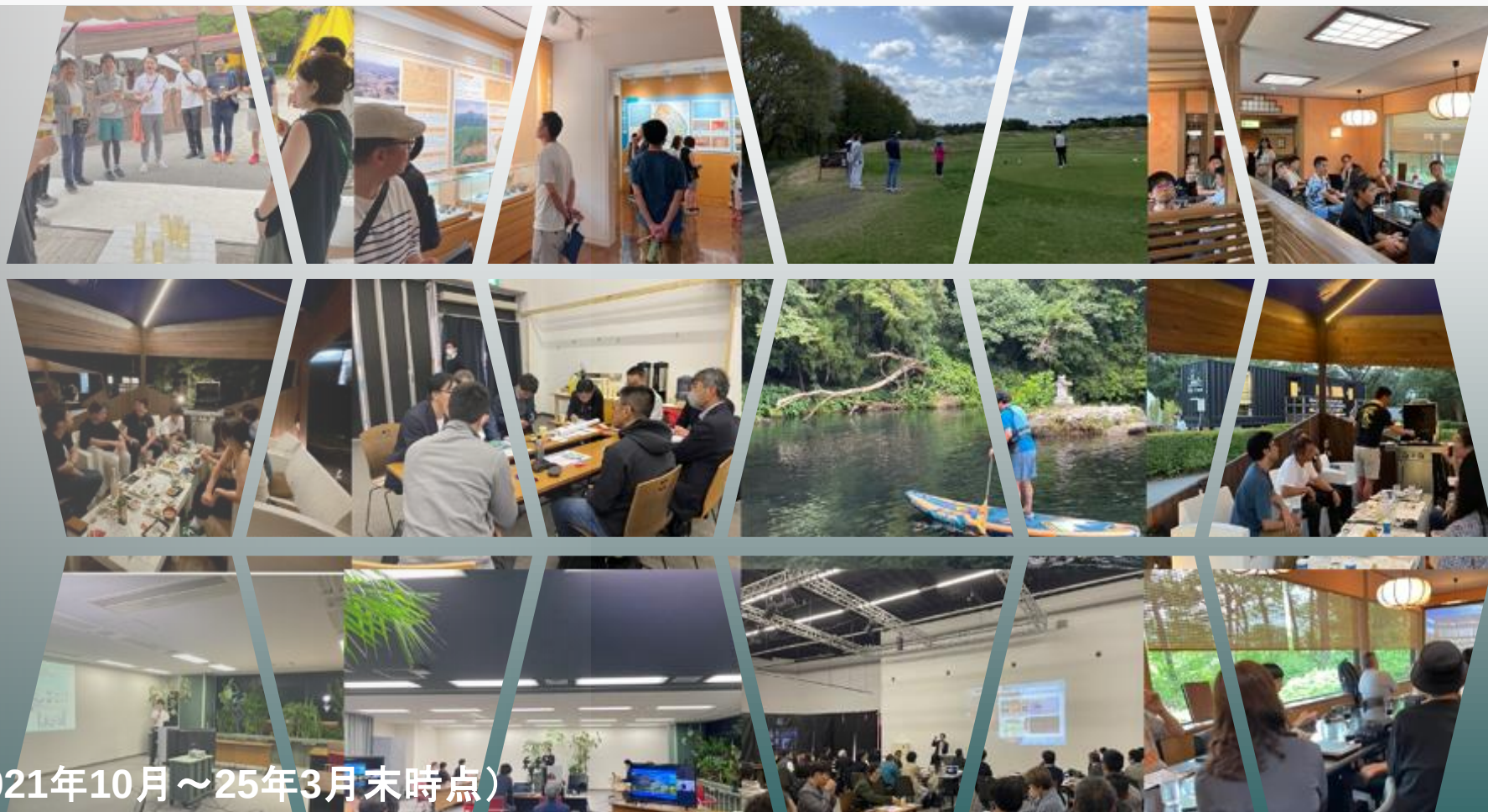
東京イベント:11回
→参加総数325名超

大型イベント：7回
→参加総数719名

現地ツアー：19回
→参加総数493名

個別視察：40回
→参加総数約340名

ワーケーション利用
→総数632泊、1,519名 (2021年10月～25年3月末時点)



ナスコンバレーの新たな取り組み



廃校の新たな活用方法



宇宙事業の地上実証



教育プラットフォーム

廃校を活用したリビングラボの運用



テレワーク環境の充実化
インスタントハウス（グランピング）宿泊施設の実装
廃校を用いた事業の展開、実証実験企業の誘致イベントの実施



ご興味お持ちの企業様はナスコンバレー協議会までお声がけください

THINK SPACE LIFEの運営がJAXA⇒ミラツクへ 宇宙の地上実証について協議開始



今後宇宙事業を実証するフィールドとしても活動
宇宙事業に関心ある企業様はぜひお声がけください。

ZEN大学、N/S高にて参画企業への 課外学習、インターン等を実施



ナスコンバレー協議会における 地域課題解決の取組の紹介



水道データとドローンを 組み合わせた空き家利活用

自治体のニーズと企業マッチング

◆事業概要

地方に眠る空き家を水道データとドローンを組み合わせて発掘し、発掘した空き家の利活用を推進する事業

◆取り組みプレイヤー

自治体 × 企業2社

◆補助金の活用

国土交通省の補助金を活用

◆実証→実装

廃校となった学校（ナスコン運営）にてドローンの実証を実施。実証の中で自治体の方にも体験してもらい実装に繋がった

◆実証が実装に至ったケースの成功要因

自治体の抱える課題と企業の持つソリューション、そして国の提供する補助金が上手くマッチングしたことが成功の要因と考える

別荘地における自動走行事業

自治体のニーズと企業マッチング

◆事業概要

別荘地における飲食店から別荘までの自動運転運送事業

◆取り組みプレイヤー

自治体 x 企業3社

◆補助金の活用

国土交通省の補助金を活用

◆実証

実装までの申請をしたが全額採択されず、地域における課題やニーズの調査を実施。その上で別荘地への自動運転運送事業を決定

2年目は採択されず実装はペンディング中

◆課題

インフラ系は実装にキャッシュがかかりすぎて実装に足踏み

交付金も実績があるところに優先して出ているので、新規に始めるのにハードルあり



平時は宿泊運営、緊急時は避難施設 オフグリッド宿泊事業

複数企業マッチング

◆事業概要

災害時などインフラが断絶したエリアでも通常と変わらない生活を実現する空間を実現。平時は宿泊運営で稼ぎつつ、災害時は避難所として活躍

◆取り組みプレイヤー

企業7社

◆実証/実装

宿泊事業として実装しながら、実証実験の場として運営
太陽電池を用いてエネルギーが賄えるか

衛星通信でどの程度の活用をカバーできるか

ドローン配送による必需品配送の実証

◆課題

水循環の導入や、食の自給自足は実装できていない。

実証の土壌は整っているので、こういった環境の整っている施設への新規取り組みマッチングや資金援助があると嬉しい



泊まれる防災展示場

自治体 × 複数企業マッチング

◆事業概要

各企業が持つ防災ソリューション（住居、通信、食、衣など）を持ち寄り、宿泊もできる防災ソリューション拠点の運用。災害時は自治体の防災拠点として運営

◆取り組みプレイヤー

自治体 × 企業1社

◆実証/実装

宿泊事業として実装しながら、実証実験の場として運営

◆課題

地方で実装することに企業のハードルが高い
実装の補助金や、マッチングスキームがあると良い
通信環境が悪く地上局の電波が入らない

地域の課題 x ソリューションを カタログ化、全国へ横展開



地域課題解決に向けた 実証から実装への課題

- 1.インフラ整備などを伴う事業（通信系や自動走行など）ではインシヤルのキャッシュが多く必要になり高額の補助金などがないと実装に結びつけないケースが散見される
- 2.補助金の募集要項に自治体窓口/自治体を交えた申請のものも多く、民間単体で申請可能なものがあるとスピードを持った実証につながると感じている
- 3.ナスコンでは実証実験から実装への環境を整えている。日本に実証実験を行える場所が少なく、実証フィールドに予算をつけていただくことで実証フィールドの数も増えるし、実証、事業化していく案件も増えていくと考える。
- 4.ソリューションを持っていて、実証まで行っても実装を行う出口パートナーが見つからず実装できないケースがみられる。出口として自治体とのマッチングの仕組みがあると良い。
- 5.単年度で完結して実装できる事業はなかなかなく、単年度で終わってしまうと中途半端で終わってしまうケースがある。複数年度で実証をサポートできる仕組みがあると良い。

EOF